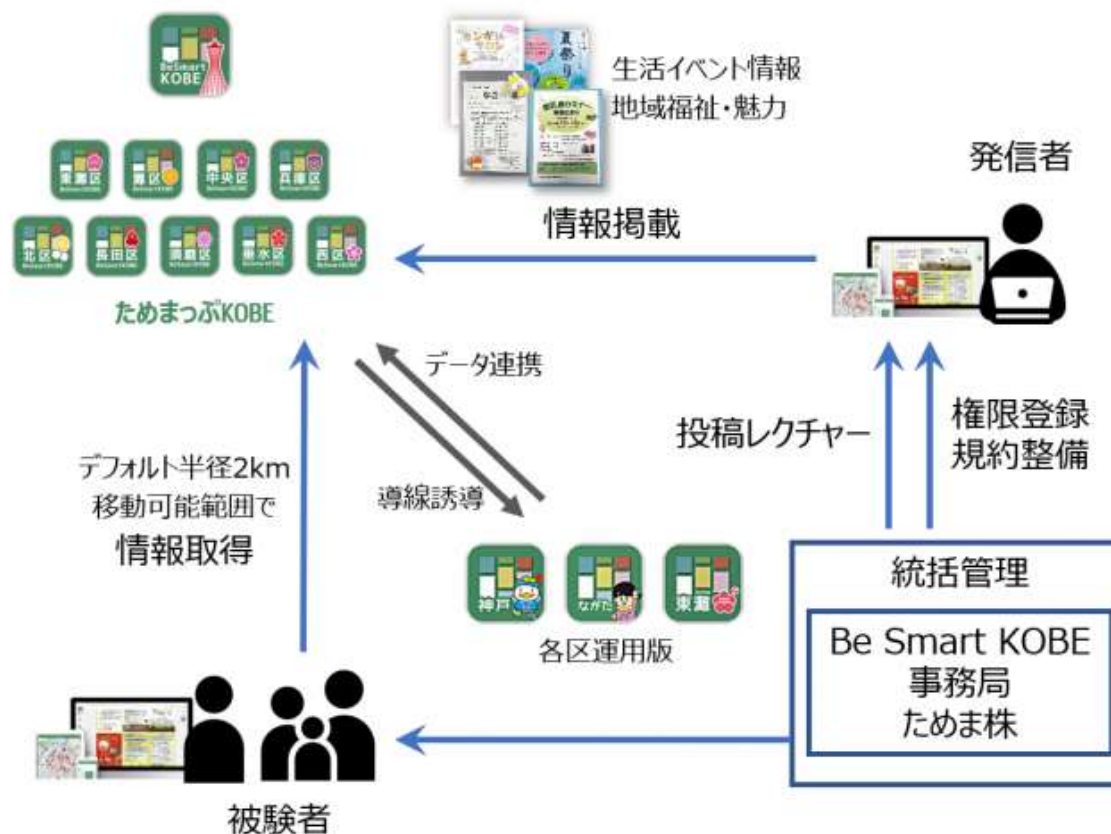


電子掲示板「ためまっぷ」を活用した地域情報発信に関する実証事業の実施

事業概要

世界中の情報はインターネットで検索できても、物理的、地理的に近くの情報は見つからない、知られない、といった課題がある。結果、あらゆる世代の住みやすさ、個人の成長、生きがい、地域参加や会話による健康維持、仕事をつくってでも住み続けたいと思う気持ちなどが得ずらくなっている。

住民参加のための電子掲示板「ためまっぷ」の活用により、地域活動やイベント、地域資源など、地域に眠る様々な情報を告知したいと思っている地域の皆さまを支援。必要な人に必要な情報を届けられる仕組みを構築し、地域情報の認知や地域活動・イベントへの参加が進むことで、共感や共生の意識が高まり、市民参加による情報発信プラットフォームを確立することを目指す。



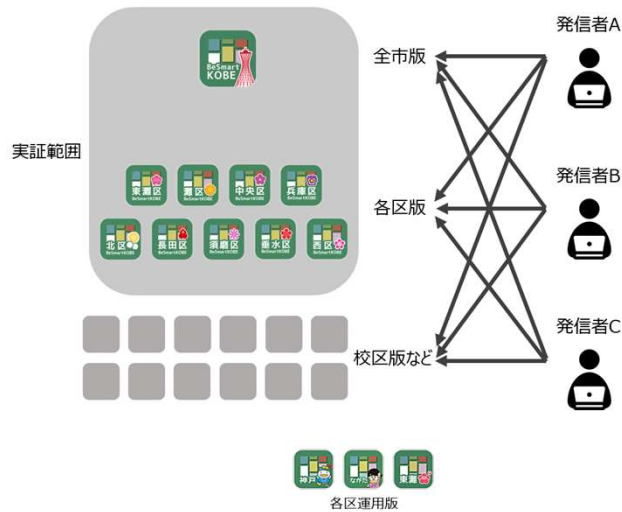
事業詳細

実証用のサイトとして開設する「ためまっぷKOBÉ」上で、地域団体や市民向けに地域活動やイベント等の“近くの人に知らせたい”まちの小さな情報の投稿・閲覧体験の機会を提供。

「ためまっぷ」は神戸市内3区で既に導入されており、地域参加で国内最高の実績のサービスとなった。未導入の区の住民の活用要望から、全市的な地域参加の情報プラットフォームの形成を図るため、地域の活動人口を通じた多様な発信の課題とニーズをレクチャー会により収集（各区まちづくり課等の協力で地域への参加呼びかけ）。

実際に活用いただいた地域団体・市民の皆さまからの意見・ニーズを確認し、市民参加による情報発信プラットフォームとしての「ためまっぷ」の使いやすさや有用性を検証。

参加者	全8回レクチャー会受講団体数 15団体21人 投稿登録団体数 38団体 閲覧者全実証サイト総計 1,593人 イベント投稿件数 300件 イベント閲覧件数 121,522件（一覧）、19,949件（詳細）	実施期間	令和3年11月4日～令和4年2月18日
		実施場所	神戸市全域

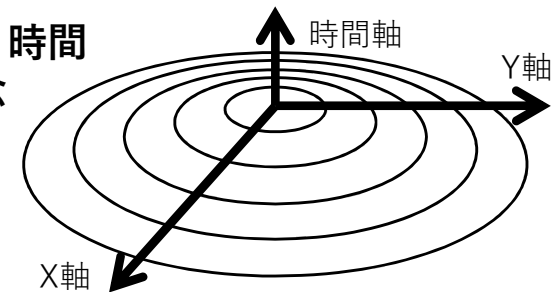


●地理学の第一法則

全てのものは他の全てのものとの関係性を持つが、距離がより近いもの同士ではより関係性が密接である

●時は得難くして失い易し

地理×時間
の概念



検証結果

オンライン・オフラインによるサービスレクチャー会受講者に受講後NPS形式のアンケートを実施した結果、投稿操作の簡易性と、自団体が持つ課題解決の対策として本格導入への期待度は最高10の評価点の内、平均でそれぞれ9以上の高い評価を得て推奨者クラスとなった。※n数16

- 投稿操作の簡易性 【9.1ポイント】
- サービスの利用・導入の期待度 【9.8ポイント】

また、子ども食堂主催者より、SNSやLINEの発信では新規参加者は増えなかったが、ためまっぷの発信で新規参加が増えた、という声をいただいたことは、世界的にSNS等の活用の向きのある公共コミュニケーションのあり方や地域の持続発展性において大きな検証結果を得られた。

【まとめ】この期間での投稿者登録数と投稿数、回答結果は、他自治体と比較しても神戸のあたたかい人情は特段のものであり、長田区で「このサービスのないところには引越したくない」という住民の声を、この検証を通じて全市的に実現できる確証を得たと考える。

根拠・分析結果

レクチャー会告知チラシ
 地域福祉センター 3000部
 全区まちづくり課 訪問説明 & 配布
 1000部



No.	区名	団体名	担当	登録数	投稿数	回答数	平均評価
12/24	1	灘区	なごみふれまち協議会	5	10	10	9.1
1/8	1	灘区	[on] NPO法人ひととこネコト高層「つながり」のほたるみっく	10	10	10	9.8
1/26	2	中央区	みそらこども食堂	10	10	10	9.1
		灘区	[on] こころの文庫	8	10	10	9.1
2/3	1	灘区	こども食堂運営づくりネットワーク	10	10	10	9.1
2/28	1	灘区	[on] HIRAKAFC	10	10	10	9.1

項目	評価	コメント
投稿操作の簡易性	9.1	投稿操作が非常に簡単で、誰でも簡単に投稿できる。特に、写真のアップロードがスムーズで、操作性が高い。
サービスの利用・導入の期待度	9.8	サービスの内容が非常に充実しており、地域の課題解決に大きく貢献できる。導入への期待度が高い。



レクチャー会参加者
 ふれまち協議会
 ご担当者(85)

レクチャー会参加者集計表

サービス実装の目途・目標 ※もしくはサービス実装に必要な支援や課題等に関する記載でも可

神戸市各区の地縁団体である「ふれあいのまちづくり協議会」や、比較的若い世代による子育て、教育、障がい福祉等の支援活動団体の方々全てに共通して高い導入の期待をいただいた。サービス自体は機能のリクエストもあったが、概ね利用には十分でいつでも実装が可能である。

ただし、高齢者はレクチャー会後の活用頻度が低かった。その原因として、コロナ禍で利用機会がなかったのか、記憶を活性化し活用を促す工夫が必要か、など調査が必要である。

また、神戸市との連携においては、地域活動支援コーディネーターによる情報投稿（灘区）や子ども食堂運営団体での活用（子ども青少年課）など、新たな取り組みが展開された部分もあったが、予算と継続が確定していない実証協力は難しいといった各区関係者からの声もあり、住民対応への慎重さが伺えた。各区関係者には、オンラインなど協議の場を重ねることでスムーズな実装が可能になる。